るさと学芸員の講演から④

佐賀平野の水と農業の祭り・信仰

～神埼の祭りと信仰

講演者　元さが水ものがたり館 館長　金子 信二氏

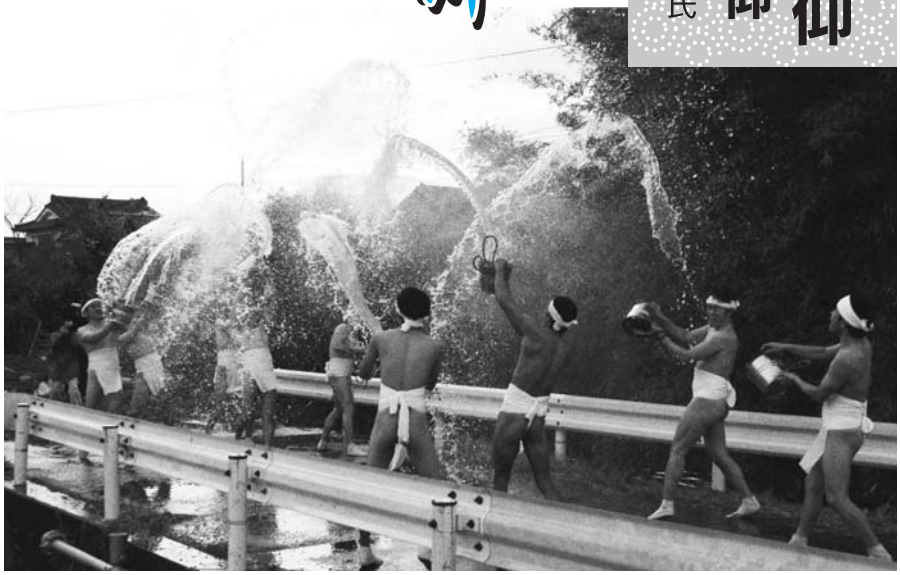
水や雨の神に篤い信仰

私は佐賀民俗学会副会長を務めていますが、今日のテーマに関係する民俗学は衣食住、生産・生業、交易、信仰、芸能、遊戯、年中行事、冠婚葬祭など研究対象は広範です。脊振、神埼、千代田にも対象になるいろいろな年中行事がありますが、地域によって随分違うし、あまり知られていないので紹介したいと思います。

神埼市は脊振山地を源流とする小河川が脊振地区で城原川に流れ込み、神埼地区では中央に城原川、西に中地江川、東に田手川が流れ、南部には堀が巡っています。千代田地区では堀が古くから水源地の役割をし、河川に水が流れ込む時期に堀に水をためて、上げ潮のアオ(淡水)も含めて農業用水にしていました。

3地区とも主産業は農業ですから、水に対する思い入れは強く、それが信仰や祭りにも現れています。水の信仰としては、まず弁才天信仰があります。弁才天は水の神様で、脊振神社の上宮に佐賀藩によって神殿が造営され、下宮の祭殿には弁才天仏像が祀られ、下流域の人たちからも信仰されてきました。千代田町崎村、林慶、黒津の伊都伎島神社にも弁才天が鎮座しています。石祠・石造としての弁才天は脊振町鳥羽院、神埼町岩田、本堀、二丁目、千代田町上直鳥、出来島、中津などにあります。水が必要になる田植え前に祭りを行っていました。

脊振神社上宮弁財天



大島水かけ祭

弁才天、八大龍王、河童も

雨を呼び雷電を司るといわれる八大龍王信仰もあります。神埼町仁比山大井手堰そばの自然石大岩に「八大龍王」と彫られています。千代田町乙南里の城原川堤防上にも八大龍王の石碑が建立されています。

河童信仰も昔からあります。千代田町高志の高志神社、大島の菅原神社などの拝殿に河童像が刻まれています。河童は想像上の動物で、水神の落ちぶれた姿といわれています。田植えが近づき、堀に水が満たされるころ、水への感謝と子供の水難防止に「ひゃあらんさん祭り」が行われます。

高志神社河童

農業の信仰では、牛馬の神がありません。昔は農業には不可欠の労働力であったことから生まれた信仰です。頭上に馬頭を戴いた馬頭観音が脊振町小原、一番ケ瀬、田中、神埼町姉川、戸井土、小渕、横武、荒堅目、平ケ里、枝ケ里、千代田町黒津などに祀られています。牛馬の供養や無病息災を祈ったものです。千代田町境原の若宮神社では、古くから牛馬の疫病退散、安全祈願が行われ、近隣の村々からお札を求める人が大勢参拝したといいます。

農業の神様といえば、福岡・大分県境の英彦山神社です。特に佐賀藩の信仰は篤く、社殿や鳥居などは佐賀藩歴代藩主の寄進が多かったといいます。県内の集落からも、選ばれた代表者が豊作祈願のため、「英彦山参り」をしていました。

脊振町政所では各家からあげ銭を集め、10月5日前後に5人1組で参拝、帰ってくると、床の間に英彦山権現の掛け軸をかけ、参拝者を中心に酒宴を張ったといいます。千代田町大島で2月15日に行われる「水かけまつり」は英彦山参りの前に身を清める行事。講仲間3組が水を汲み、勇壮に掛け合うことで知られています。

あなたもふる

続「神埼塾」

祭り日程は稲作にかかわり

1年の節目となる春、夏、秋祭りの日程は日本の大切な稲作の節目と大きなかかわりを持っています。

正月2日には農家では「ニャーゾメ」と呼ばれる仕事始めをします。わらを打ち、縄ないをし、牛に使う道具などを作り、田んぼに出てクワ打ちの真似事をし、仕事に向かう意気込みを示しました。小正月頃行われる「もぐら打ち」は、もぐら打ち棒を作り、各家の庭先で、もぐら打ち歌にあわせて地を打ち、豊作を促す行事です。

荒堅目のもぐら打ち

「年占い」の行事では、2月8日に脊振町鹿路神社で、鬼と書いた的を射って悪魔払いやその年の豊穣を占っています。神埼町横武の乙龍神社では1人で5本の矢を射て豊作や家運、厄除けを占います。

3月丑の日に脊振地区では「出丑」があり、牛を初めて野良へ出します。ぼたもちを作り箕に入れてお供えします。田仕事が済む秋には「入り丑」があります。3月下旬から4月下旬にかけてクリーク地帯で行われた「ごみくい」は、堀に沈殿した泥土を揚げる作業です。これは堀の貯水量を保つことと、揚げた泥土を乾かして稲の肥料とすることが目的でした。

「大御田祭」は申年4月に神埼町仁比山神社で行われます。舞台上で田を耕し、種をまき、田植えをするという一連の稲作光景を御田舞として奉納、豊作の祈りを込めた祭りです。

田植えを控えた農繁期前の行事として、脊振地区には「おいたち祝い」がありました。5月21日ごろから1週間、当番の家で三日三晩、手作り料理と造り酒を飲み交わしました。クリーク地帯でも神埼地区では「舟なぐまつり」が昭和初期までありました。堀の水位が一番上がるころ、山田や姉川、横武の若い男女が集まって小舟に乗り、各集落の堀を巡るという豪快な遊びでした。いずれも、過酷な農繁期の作業に向かう前の娯楽でした。

横武の百手まつり

祭りの語り継ぎ必要

「しぇー(潮)とり祭り」は城原川や中地江川流域の集落で9月12日に行われ、天狗と御幣に先導されて、有明海から上ってくる潮をいただいてくる行事です。アオ(淡水)を農業用水として使用している集落が恩恵に感謝する祭りです。

「お日待ち」は太陽に感謝する祭りで11月14日夕刻からもちをついて供えます。その夜は飲食をしながら過ごし、15日早朝の日の出を拝みます。「おくんち」は12月15日か20日ごろに催します。くんちが近づくと、堀干しをしてフナの昆布巻きを作り、新米のもち米で作った赤飯を親類、知人とともに食べます。

旧暦11月に各集落では収穫も終えて1年間無事に過ごせたということで、集落全員が集まって行う「霜月祭り」があります。収穫に感謝し、1年を締めくくる大切な祭りです。祭り当番が準備をし、祭り当日の朝食は老若男女全員が加わります。子供たちが楽しみにしていた祭りでもあります。

以上のような年間の祭り・行事がありましたが、少子高齢化によって活動できる組織がなくなったり、信仰心の薄らぎなどで、多くは廃れています。残っている行事でも、祭りの内容を変えたり、日程を新暦に合わせて1月遅れの直近の日曜日にするなど変わってきています。

こうした祭りは地域の歴史文化遺産です。祭りを伝承している集落では祭りの意味をよく語り継ぐとともに、今は廃れた集落でも「私が子供のころはこんなお祭りがあった」と先人の心持ちというか、信仰心の篤さを口承で伝えて欲しいものです。

◎問い合わせ先
神埼市役所　市長公室
☎37－0102